



2021年7月1日

各 位

人工光型自動化植物工場『テクノファーム成田』の操業開始について

当社（社長：大田 勝幸）100%子会社であるENEOSテクノマテリアル株式会社（社長：浅田清史、以下、「ENEOSテクノマテリアル」）が出資するJリーフ株式会社（社長：上原 淳、以下、「Jリーフ」）は、6月30日に国内最大規模の人工光型自動化植物工場『テクノファーム成田』※1の操業を開始しましたので、お知らせいたします。

日本の農業は、天候不順や農業従事者の高齢化および担い手不足などによる供給不安定化が大きな課題となっております。植物工場は、これら農業の課題を解決する技術として大きなポテンシャルを持っており、その成長が期待されております。

2019年6月に着工し、このたび操業を開始したテクノファーム成田は、株式会社スプレッド（社長：稲田 信二、以下、「スプレッド」）が開発した次世代型農業生産システム『Techno Farm™』※2を導入しております。工場内で植物生長に必要な諸条件（光量、温度、湿度、風速、栄養分など）を最適に制御し、栽培過程において一切農薬は使用せず、環境負荷を極力低減させながら、日産3万株のレタスの生産を実現します。Jリーフは、自動化設備を搭載した人工光型植物工場としては国内最大規模の施設となるテクノファーム成田を通じて、安定的に高品質かつ「安全・安心」なレタスを提供してまいります。

以 上

※1 人工光型自動化植物工場「テクノファーム成田」の特長

- ①栽培工程の自動化により省人化、衛生品質の向上、作業の標準化が可能
- ②単位面積当たり生産性が高い（従来工場の2倍にあたる28段の栽培棚を設置）
- ③天候や土壌などの自然環境の影響を受けない
- ④水や肥料などの利用効率が高く省資源である
- ⑤虫害が発生しないため工場内で農薬を使用しない
- ⑥IoT技術を用いて、栽培データを効率的に管理できる
- ⑦屋根に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを活用

※2 『Techno Farm™』

スプレッドの登録商標

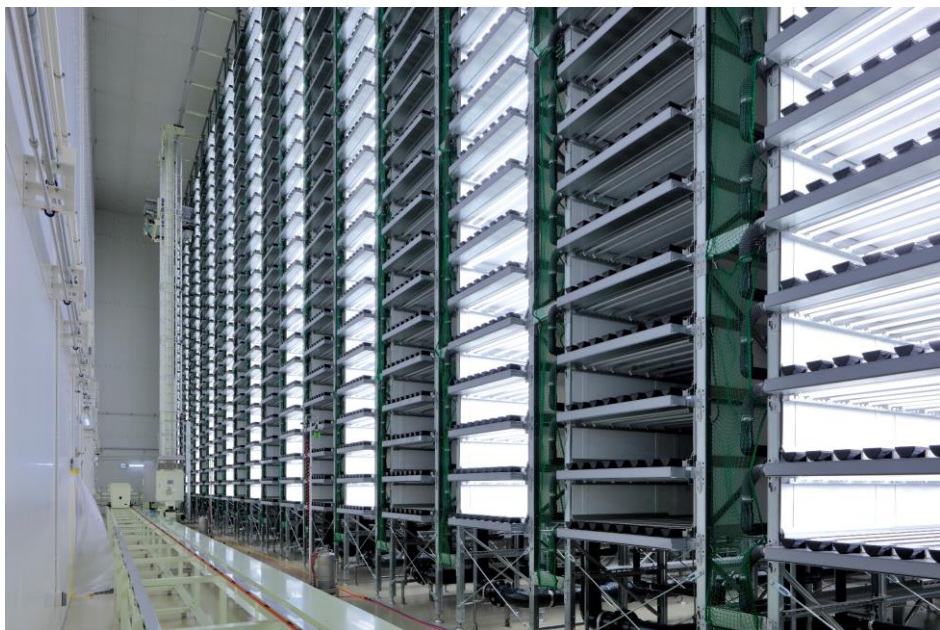
スプレッドのノウハウと技術革新を融合して生まれた次世代型農業生産システム

とどけ! 熱いエネルギー ENEOS

<工場外観図>



<栽培室内の様子>



とどけ! 熱いエネルギー **ENEOS**

<関係者によるテープカットの様子>



(左から) 日新商事 入取締役、スプレッド 稲田代表取締役社長、Jリーフ 上原代表取締役社長、ENEOS 河西常務執行役員 機能材カンパニー・プレジデント、ENEOSテクノマテリアル 浅田代表取締役社長

とどけ! 熱いエネルギー ENEOS

< Jリーフ株式会社の概要 >

代表取締役 社長	上原 淳 (うへはら じゅん)
設立年月	2018年7月
資本金	8,000万円
所在地	千葉県山武郡芝山町小池2700番72 (ENEOSTechnoMaterial成田工場敷地内)
事業内容	人工光型植物工場における野菜生産・販売
出資比率	ENEOSTechnoMaterial株式会社 68% 日新商事株式会社 32%

< 植物工場の概要 >

所在地	千葉県山武郡芝山町小池2700番72 (ENEOSTechnoMaterial成田工場敷地内)
敷地面積	約8,000㎡
栽培品目	レタスなど葉菜類
栽培規模	日産3万株
操業開始	2021年6月30日

< 株式会社スプレッドの概要 >

代表取締役 社長	稲田 信二 (いなだ しんじ)
設立年月	2006年1月
資本金	8,740万円
所在地	京都府京都市下京区中堂寺粟田町90番地
事業内容	植物工場事業の運営・販売

とどけ! 熱いエネルギー **ENEOS**